



名和中 2年

小川 胡桃

私は、ホストファミリーと初めて会う前までは「会ったらどう反応して、どんな言葉を言えばよいのだろう」と不安が大きくてとても緊張していました。しかし、いざ会って見るとホストファミリーの方々はとても明るく笑顔で接してくださり、なじみやすかったです。

ホストファミリーと過ごした日々で、楽しかったことや心に残ったことがたくさんあります。その中でも、一番ホストファミリーとの絆を感じたのは、ホストファミリーの愛犬ボレゴとの散歩でした。散歩中は踊ったり、ゲームをしたりしながら歩き、ホストファミリーとたくさん話をしました。私のつたない英語でもジェスチャーを付けると会話をする事ができ、十分に意志を伝えることができました。私は今回の研修で、自分の中で何かが変わった気がします。堂々と物事を進めたり、何事にも取り組んだりする行動力がついたと思います。



大山中 2年

杉山 鞠

私はこの研修を通して、ホストファミリーに日本の魅力をつづり伝えることができたと感じています。日本食を作る日には、祖父母のお米で作った大山おこわと白玉ぜんざいを食べてもらったり、持つて行った写真で七五三など日本の行事の話をしたりして、自分の国や町を紹介する喜びを感じました。

また、この12日間の研修で「自分はやっぱり英語が大好きだ！」ということを確信しました。テメキュラに行く前に副町長さんが「英語っていうのは素晴らしい言語なんだよ。どんな国でも英語を使ってコミュニケーションを取ることができるとだよ」と言っておられました。その通りだな。英語って魔法みたいな言葉だな」と素直に感じました。そして、自分は英語を通してたくさんの方と関わる仕事に就きたいという思いが強くなりました。

中山中 3年

藤野 陽香

私は、今回の研修を通してたくさんの人々と関わり、様々な文化に触れることで、アメリカの良いところやアメリカと日本の違い、今まで当たり前すぎて気付かなかった日本の良いところを見つけたことができました。また、いろいろな面で成長することができたと思います。

いろいろな場所を見学しているうちに、アメリカはボランティアが多いことに気付きました。特に、パブリックライブラリーでは週に一度、無料で相談のつてくれる弁護士がいたり、高校生が宿題をみてくれたり、また写真や絵、本の寄付もたくさんあると聞きました。高校生のボランティアは学校の内申のようなものに入るといいます。このように、人の役に立つことに意欲のある人が評価されるのは、良いことだと思います。

中山中 3年

木村 朋花

私はテメキュラに行つて本当に良かったです。日本とは違った考えばかりで毎日が新鮮でした。

私が初めに驚いたことは、ホストファミリーの雰囲気です。例えば、就寝前のパディの子どもとホストマザーが会話をしていました。おやすみなさい (good night) の後、「愛している (love you)」と言い合い、ホストマザーが「良い夢を見てね」という光景を見て驚きました。普段の家庭生活の中にも、「手伝おうか (May I help you)」という言葉がしょっちゅう聞こえました。日本では、寝る前に「愛している」なんて言わないし、12、13歳の女の子が母親に「手伝おうか」ということも少ないと思います。だからこそ、この家族愛あふれる光景を見て、温かい感じがしました。

